

令和3年度第2回亀岡市社会教育委員会議 会議録

1 日時 令和4年3月28日(月) 午後1時30分～午後2時30分

2 場所 亀岡市役所 8階800会議室

3 出席委員

工藤 和之 議長
中嶋 知彦 委員
猪子 純子 委員
沼津 雅子 委員
山田 昌子 委員
池田 恭浩 委員

4 欠席委員

美馬喜代子 副議長
川口 研一 委員
野々村誠一 委員
上田 善郎 委員
廣 正基 委員
中澤 博幸 委員

5 出席事務局職員

神先 教育長
片山 教育部長
樋口 社会教育課長
山崎 社会教育課人権教育担当課長
岡田 社会教育課副課長
大槻 社会教育課主査
岩崎 歴史文化財課長
谷 図書館長

6 傍聴者

なし

7 議事の概要

(1)開会

(2)あいさつ 神先教育長

(3)連絡・報告事項

- 〔1〕 令和3年度亀岡市社会教育推進事業について
- 〔2〕 令和3年度亀岡市人権教育推進事業について
- 〔3〕 亀岡市社会教育委員の令和3年度活動報告及び

令和4年度活動計画について
〔4〕 第2次亀岡市教育振興基本計画について

(4)協議事項

- 〔1〕 南丹地区社会教育研究協議会の役員選出について
- 〔2〕 その他

(5)閉会

あいさつ 片山教育部長

8 説明を受けて委員からの主な意見と情報交換

【意見】

(3)連絡・報告事項

- 〔1〕 令和3年度亀岡市社会教育推進事業について
報告どおり了承
- 〔2〕 令和3年度亀岡市人権教育推進事業について
報告どおり了承
- 〔3〕 亀岡市社会教育委員の令和3年度活動報告及び
令和4年度活動計画について

○委員

令和4年1月の成人式に参加させていただいた。本校の吹奏楽部が成人式オープニングの演奏をさせていただいたが、今年度は吹奏楽部の校外での演奏の機会がほとんどなく、サンガスタジアムで演奏をさせていただいたことが非常にありがたかった。亀岡市内の他の高校の吹奏楽部でも、演奏の機会が近年はとても少ないと聞いている。来年の式典でも吹奏楽部をぜひ招いて演奏させていただきたい。今回の成人式に参加した吹奏楽部の生徒は、コンサートホールなどの演奏と違い、屋外であるので飛沫などを気にせず、のびのびと演奏することができたと言っていた。本当に演奏ができて良かったとも言っていたので、ぜひ来年もオファーをお願いできたらと思う。

○議長

今、話にあった成人式についてだが、令和4年4月1日から成人年齢が引き下げになることに伴い、名称が変更になると聞いている。今後、式典実行委員で名称を検討した後、社会教育委員会議会で報告等があるかと思うが、進捗状況はどうか。

○社会教育課長

20歳を祝う会(仮称)については、昨年、社会教育委員の皆様にご意見をいただき、式典実行委員に

も意見をいただこうと考えているところである。式典の名称については、他市では、「20歳のつどい」や「20歳を祝う会」など様々な名称が検討されているようである。そのことを踏まえて、令和5年の新たな式典に向けて新たに実行委員を招集し、その中で意見を出し合い、教育委員会等で検討を重ね、決定していく予定である。

○議長

亀岡市の式典は、毎年、式典の対象となる20歳の者が実行委員として活動し、開催している。いろいろな名称が考えられると思うが、当事者である20歳の意見を尊重した名称に決まれば良いなと考える。

○議長

前の社会教育委員会議でも意見が出ていたが、「女性集会」という名称についての検討はされたのか。今までの歴史があって、「女性集会」という名称にしているのだとは思いますが、男性と女性とはっきり分けてしまうのではなく、多様な性が認められている現代である。また、女性集会自体に男性の参加者も多く、内容も女性に偏ったものではないため、名称の変更を検討してみてもどうか。

○人権教育担当課長

女性集会の名称については、今年度の女性集会実行委員会の中で検討された。「今の時代に女性に限った名称はどうだろうか」といった意見もあったが、国や府の制度を考えると「女性」という表現が使われており、ジェンダーに対する課題や問題も解決されていない。また、LGBTQの概念をどのように統合していくか等もあり、名称の変更については女性集会実行委員会で数年のスパンで検討を重ねていこうとなった。

〔4〕 第2次亀岡市教育振興基本計画について
報告どおり了承

(4)協議事項

〔1〕南丹地区社会教育研究協議会の役員選出について

○議長

南丹地区社会教育研究協議会の会長を選出しなければならない。例年、社会教育委員からではなく、社会教育課から選出してもらっている。社会教育課樋口課長にお願いしようと思っている。
→全員異議なし。

【情報提供】

〔2〕その他

〈保津保育所の自然保育について〉

○委員

牛松山のふもとにあり、保津川に近い保津保育所では、令和3年7月から豊かな自然と街の資源を生かして保育に積極的に取り入れる自然保育を実施している。普段から散歩をしたり、生き物を育てたりしていたが、自然活動アドバイザーの指導を受けて、さらに一步踏み込んだ取り組みを進めている。資料にある子どもたちの様子を見ていただきたい。今年度に最も力を入れて取り組んだのが「エコウォーカーキッズ」という取り組みである。エコウォーカーとは散歩をしながらごみを拾うという取り組みで、子どもたちの「ごみを食べると魚さんが死んでしまうのではないか」「このままだとごみが川を流れて海まで汚してしまうんじゃないか」といった言葉を受けて、その優しい気持ちを大事にしていきたいという思いから始めた取り組みである。保津川だけではなく、サンガスタジアム周辺や、市役所のあたりまで、ごみを拾いながらの散歩を行い、周囲の人から「がんばってるね」などと励ましの声を掛けていただいている。子どもたちはこの取り組みを通じて、ごみの分別やリサイクルにも興味を持ち、ごみを分けたり数えたり、ごみの種類を覚えている。また、散歩では、「古いものを探してみよう」という遊びもしている。保津には古い街道や神社やお寺があるのでそれをみんなで見学する散歩や、友だちとじゃんけんをして勝った方が行き先を決める散歩などの遊びを取り入れて、自分たちが住む街をもっと知ることができるようにしている。様々な取り組みを通じて、身近な環境を知ること、大きくなっても自然や環境を大事にする心を育てるとともに、このように子どもたちが主体となった活動が、子どもたちの生きる力に繋がっていけばよいと考えている。

〈社会教育事業全体に対する意見〉

○委員

亀岡市が非常に長く、質の良い人権教育をされてきたのを知っている。しかし、女性集会という名称には私は疑問を抱いている。私たちは、広い地域社会の中で生きてきているが、元になっているのは個人の尊厳であり、個人が大切にされる環境があってこそその地域社会である。障がいがあっても自分の思いがうまく表現できない人でも、個人の尊厳が尊重されるべきであるし、そういった人をサポートできる力を多くの人々が身に着けることや、その思いを代弁することで、すべての人の尊厳が守られる社会でなければならない。自身が日頃行っている相談支援心理カウンセリングの中で一番大事にしているのは、個人個人の個別性の尊重である。近年では、多様性の理解や機能性社会などが取り上げられているが、それを学ぶプロセスが集団の中での活動が主体となりがちであり、つつい個人個人の尊さというのは置き去りにされてしまうものである。個人の尊さを大切にしながら地域社会を捉え、生かしていく社会が大事だと自分は考えている。

○委員

保育所の役割としては、本来であれば子育て支援事業やひろば事業を通じた、子育て支援や家庭教育力の向上に繋げていくことであるが、今年度においては新型コロナウイルスによって十分にその取り組みができなかった。しかし、紹介したように保津保育所での取り組みを少しでも多くの人に知ってもらうことで、園児たちが社会との接点を持つことができるとともに、家庭や地域の方にも乳幼児期の保育の大切さを知ってもらえると思う。また、この取り組みを通じて、ものを大切に使

うことや、生涯に渡って学び続けることの大切さを周知していけたらと思う。

○委員

地元の子どもたちを地元で育てるといふことの大切さを痛感している。一部には、地元の中学校で学んだ後、京都市内の高校に通う子どもたちがいるが、地元の高校を選んでくれた子どもたちをいかに育てていくかをとても重要視している。今年度においては、高校に通う生徒たちが、もっと地域の中学生や小学生と関わる機会を持ってないかを考えているところである。例えば、教員を目指す高校生に近隣の小中学校で教鞭を取ってもらうなど、教える側にとってはキャリア形成につながるし、教えてもらう側にとっては年上のお兄ちゃんお姉ちゃんと遊んでもらえるといった取り組みをしていきたいと思っている。

○委員

近年では、様々な行事が新型コロナウイルスの影響により中止になっていることをニュースなどでよく耳にするが、社会教育課ではたくさんの事業が実施されていることを知ることができた。新型コロナウイルスを理由に教育の場を止めてしまうのは良くないことである。社会教育や学校教育は全て、人と人とのつながりが基本であると考えている。最近では、マスクをしているせいで相手の表情が分からないことで、人との距離感に悩むことが多くなったが、だからこそ人と人とのつながりが大切であるのだと実感している。早く新型コロナウイルスが収束して平和な世の中が戻ってきてほしいと願うばかりである。

○委員

前に議長の提案で、社会教育委員が亀岡市各地域の教育活動を見に行き、それを報告しあうということで、自分は安詳小学校に行って学校の様子を見てきたが、その報告の機会がコロナ禍で流れてしまったのが、とても残念である。会議も大事ではあるが、実際に教育の現場で何が行われているのかを見て、知って、それをもとにどうしたらいいかを考える機会を持つことができればよいと思う。ただ、コロナ禍の中では気軽に見に行くという体制が取りづらく、調整などが困難であるのは理解しているので、長期的な目線で、社会教育委員や教育に携わる者が気軽に現場を覗くことができるようになればよいと思う。

○議長

社会教育委員が亀岡市各地域の教育現場等の活動を見に行ったのは、地域学校協働活動推進事業の今後を考えるために実施したことだったが、コロナ禍が落ち着き次第、また改めてそのような機会を設けられたらと考えている。また、教育委員との意見交換会も考えていきたい。自分は子ども会やPTAの方で各団体の活動に携わってきたが、今年度はコロナ禍でほとんど活動ができなかった。新型コロナウイルスが感染拡大し、2年に及び活動ができなかったことで、保護者の方と役員との間に温度差が生まれていることを強く感じている。今までは事業の実施にあたり、昨年度に実施していたから今年度も実施しようという感じで進めてきたが、今後は事業を実施する前に保護者

と役員とで理解を揃えてから実施していければと思う。